いずみ２組　国語科　学習指導案

授業者：天本　美咲

単元名：「自分の魅力を上手に表現しよう」（本時：４/6 時間）

【生成 AI の活用】

① 異学年による文章相互評価における「評価の視点・役割」の整理と提示（生成 AI の活用）

Q：お互いが書いた文章を発表し合い、評価する活動で、学年や能力が異なる生徒が対話活動を充実させるための手立て案を提示してほしい。

Ａ：中１から中３（先輩）への評価：中１の生徒には、先輩の難しい言葉遣いに対して「中学生の僕たちにも納得できる理由か」、「言葉が難しすぎないか」という、聞き手としての素朴な反応を返す役割を与える。中３が「多様な考え（聞き手）を想定する」という視点をもつことにつながる。

Ａ：中３から中１（後輩）への評価　：中３の生徒には、後輩の原稿に対して「事実と意見が混ざっていないか」、「小学生に伝わる具体的なエピソードがあるか」など、構成や論理の面からアドバイスする役割を促す。

②【第４時】

○原稿の比較による推敲の補助

自分で作成した原稿と、AI が生成した客観的・論理的な構成案を比較・吟味させる。AI の案を「もう一人の自分」の考えとして提示することで、中学１年生は「事実と意見の不足」、中学３年生は「論理展開の課題」に気付き、納得感をもって自分の言葉を選び直すための視点を与える。

③【第５時】

○話し方の客観的分析と具体的改善の助言

実際に話している姿を録画・録音し、その内容や話し方に対して AI から「聞き手にとっての分かりやすさ」や「説得力」の視点で具体的な助言をもらう。教師や他者からの直接的な指摘に不安を感じやすい生徒に対し、AI による客観的なフィードバックを仲介させることで、心理的負担を軽減しつつ自発的な改善を促す。

【単元計画】　（全６時間、本時：４時間目）

	時数	学習活動・内容
導入	1	相手に伝わりやすい話し方について考える。
展開	1	他者に自分の長所をインタビューして、自分の良さを見つける。
	1	集めた材料をもとに自己紹介・自己 PR の原稿を書く。
	1	自分で書いた原稿と AI が作った原稿を比較する。
	1	実際に話している姿を録画（録音）して AI に助言をもらい、改善する。
終末	1	場面を想定し、ロールプレイをする。

【本時案】

単元目標		
知識及び技能	思考力、判断力、表現力等	学びに向かう力、人間性等
場に応じた適切な言葉遣いや、敬語を理解して使うことができる。	目的や場面、相手に応じた言葉遣いや構成を考えて話すことができる。	相手の立場や考えを尊重しながら、自分の思いを粘り強く伝え合おうとしている。

本時の主眼	AI が提案した文章と自分で書いた文章を比較して、よさや課題に気付き、より自分の思いが伝わる文章に再構成することができる。　【思考・判断・表現】
準備	□　タブレット（生徒、教師）　□　学習プリント　□　電子黒板 □　Ｇｅｍ

【主眼と評価】

	生徒 A	生徒 B	生徒 C	生徒 D	生徒 E
主眼	AIが作成した文章と比較し、根拠の適切さや説得力を高める具体的なエピソードの不足に気付き、類義語や表現の効果を吟味してより説得力のある文章に再構成できる。【思考・判断・表現】	AIが作成した文章と比較し、根拠の適切さや説得力を高める具体的なエピソードの不足に気付き、類義語や表現の効果を吟味してより説得力のある文章に再構成できる。【思考・判断・表現】	AI が作成した文章と比較し、事実と意見の整理や理由の不足に気付き、分かりやすい表現や構成に書きかえることができる。【思考・判断・表現】	テンプレートやAIの文章を参考にしながら、自分の長所を表す語句を選び、順序を整えて相手に伝わるわかりやすい文に書き換えることができる。【思考・判断・表現】	AIが作成した文章と比較し、事実と意見の整理や理由の不足に気付き、分かりやすい表現や構成に書き換えることができる。【思考・判断・表現】
評価	AI文章や助言をもとに、具体例や理由を補ったり、類義語や適切な表現を選び直したりして、説得力のある原稿に推敲している。	AI文章や助言をもとに、具体例や理由を補ったり、類義語や適切な表現を選び直したりして、説得力のある原稿に推敲している。	AI文章との比較や助言を通して、根拠となる理由を補ったり自分の言葉に置き換えたりして、整った原稿に書き直している。	AIの文章や友人からのアドバイスを活用し、行動や様子を表す語句を付け加えたり文の順番を整えたりして、分かりやすい文に修正している。	AI文章との比較や助言を通して、根拠となる理由を補ったり自分の言葉に置き換えたりして、整った原稿に書き直している。

【本時】

過程	学習活動・内容	手立て（○）評価（◇）	形態	配時
導入	1　前回までの学習を振り返り、本時の見通しを立てる。		一斉	2
	2　比較するとき視点を確認する。 ・自分のことが相手に伝わる内容 ・簡潔でわかりやすい文章 ・自分らしい表現	○　考える視点を明確にするために、文章を比較する例を示す。 ○　相手を意識した文章にするために、場面を確認する。 １年生：小中交流会 ３年生：高校受験の面接	一斉	3
	めあて　自分の長所の伝え方をレベルアップしよう。			
展開	**【学習課題】** AI が作成した文章を比較して気づいたことや友達からのアドバイスをもとに、自分の伝えたいことがより伝わる原稿に書きかえよう。			
	3　生成 AI を使って、「自分の人柄」を紹介する文章を作成する。 生成 AI の活用	○　AI の原稿を自分の伝えたい内容が入ったものにするために、プロンプトの型を示す。 ○　文字入力が苦手な生徒には、テンプレートの文を用意し、複製して使うよう指示する。	個	10

展開	４　生成ＡＩが作成した文章と自分で書いた原稿を視点に沿って比較し、必要な付加修正を行う。 ABCE：AI が提示した難解な語句に下線を引き、類義語辞典や言葉カードから日常で使い慣れた表現を選んで置き換える。 D：タブレット上にあるプロンプトの型やテンプレート文（「私の強みは～です」等）を使用し、自分の様子や行動を表す具体語（「ルールを守る」「手伝う」等）を選択・入力する。	○　相手に伝わる文章にするために、AI が提示した難しい言葉は自分が普段使う言葉に置き換えるよう促す。 ○　自分らしい表現を検討するために、類義語辞典や言葉カードを使い、表現や言葉の意味を調べたり類義語を集めたりするよう指示する。 ○　文字入力が苦手な生徒への支援として、タブレット上にあるプロンプトの型やテンプレート文を使用して、選択・入力できるようにしておく。	個	10
	５　修正した原稿を発表し、お互いにアドバイスする。 【アドバイスのポイント】 ・自分のことが相手に伝わる内容 ・簡潔でわかりやすい文章 ・自分らしい表現 AB: 後輩の原稿に対し、「相手に伝わる構成か」「具体例があるか」など、構成や論理面から温かくアドバイスする。 CDE：先輩の原稿に対し、「言葉が難しすぎないか」「自分たちにも納得できる理由か」という素朴な反応を返す。 話し合い活動	○　評価者が良い点と改善点を明確にしてアドバイスやコメントができるように、補助評価として各視点について数値で評価を行う。 ○　アドバイスカードを渡し、「～の部分がわかりやすい」、「～を足すともっといい」といった具体的な肯定表現での交流を促す。	班	20
終末	６　まとめ（振り返り）を行う。	○　学習を通して気づいたことや大切だと思ったことを記述するよう指示する。	個	5
	まとめ（振り返り）（例） これまで自分の性格を『真面目』と表現していたけれど、「ルールを守る」「人が見ていなくても自分の役割を果たす」というところが自分の強みなので、『誠実』という言葉のほうがぴったりだと気付いた。この強みを、係活動の具体的なエピソードと一緒に伝えられるようにしたい。			
		◇　AI との比較やアドバイスを基に自分の伝えたいことをより伝わりやすくするためのポイントに気付いている。（学習プリント）		